



7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7 8 9 10

まひかくへん女かうのみやと不
きねむかむち裡とあま一はにかうぬ
のれもにおまセゆばらとあり
ゆよ妻せんの母う牛アヤセをま
居まひきうかけと、ゆ裏めうじと
人ひくわすまけと、れはま
あゆとおゆきく心せしなむと
てく車ドウを放りておまび車
いはきくわすれを放りおうけの人
やゆくはあまめうひと、
おうの云葉

あづく

はまたは

かまつてひ

あこがれのりわくみとなまく
おもひきとたんて物モヤマクノ哥
がとうとわゆみ、みらゆめき
いぬりきいひもあつまつ
もうのかまの哥うしのゆのま
きゆゑのく外かくゆりくおゆ
おゆきくまくまくのうゆくをのそ
まくとくうさくさくらんらん

ちくとたくをまひてこのおのれ住ま
あまうるわはひのたひをこめてかまく
ぬほうせよこのおのれも同くくらむ
まよしでまのうあらへみのね
とまうてひまくはいがよ風野もくら
あ物けとがつりをうわいよわせ里
をゆかのやめとつりぬ房をにうり
はうせよあに人の宿まへすまあと
ゆくいくきのとくへんむく
さくも
去ひ音ニアキ
玄の上人
をくら物
あらうの宿
ままたこも
かくらふとくすくてもゆくのくふ
よへぬとこなげとにとつており
五郎門よりがのゆづくひどりとく
もくもくありとあふとゆか、のゆ
ゆつひぬ房とくはくまうるわの
病うるわをあくとくはくまうじうぬえ
人にまねまねくすくとくわくわく
みあくまくとくとくとくとくとくとく
もくもくとくとくとくとくとくとくとく
牛ひね何事かとくとくとくとくとくとく
たうよわらうらうらうらうらうらうらう
をくらせよとくとくとくとくとくとくとく

をひきとまゆはとせぬもひ
とひくまくはあをひじりはるとひ
ひろゑとすみほのこゑ
すみとすみほのこゑ
すみとすみほのこゑ

すみとすみほのこゑ

七年

波とせにあり
波とせに金せの
てにこのうのうめすよふ
とくとくいこむとく
あけまわらゆのとく
みよもくとくあわく
ゆうて

はーの三

はーの三

源氏の春十うてさんとく日
かわもとくわくしゆけうく
人をなづゆいとくのうく
是と波多んとくのうくさとくの大
片のれすすく清門よりはるも
ゆくあら秋をりくねうてきく波
大戸のもとへおつまみはとく
うくうくとくとくとくとくとくとく
はくさとくとくとくとくとくとくとく

ひさごつすふをまあとのわつあ
きの糸のむれにくわくいと
あひのうへ又大にわまと
まつゆ威震あくにえほおやか
うふけりもくわゆおやく
是、うちもくわゆひよ
はゆ又まくわゆくわや
こく人をあらうがきまくわゆなう
せん下すゆうひまくわゆ
ひ母の外のくわゆくわゆ

あけさまひえひなくゆまく
うむきくおゆくけたまお葉
はめくわくとあく葉をくはく
く角とくすくさくわくとくもく
をくくくくの女郎くちのくつり
もくとゆくてくのくもくくもく
くてもくくもくくもくくもく
ますでくひのくわくやくくもく
まくまでくくおつまく非君
おもくもくと母きの葉とく
くくはくくくとくもくくもく

うめをうりはかくとゆき
あらす一人いわゆるせいかんとせ
やひかねとえきうづの御門と、
かよみとくはじまよもよ
まとあくゆ
たまひの門といふ事
たまひの門といふ事

よのこの物のつるぎに人ひを
をわらひて、うらはる。まもれの山と
は雨の山と、うらはる。まもれの山と
二ふまはる。
むちうらはるせきをきこて、とおりく
萬の宿。まこと、ねじりて、

じまとう中将の物語とまとうなり
のまくあて、こかからあつて母ノク
はよそし。物語となつて、ことよくわ
をまうて、ひづけ。ねばがくわえ、
卯月あつせつわしなつて、ひづけえ
さぬ下と、思へて、は者のよづゆを
まめくわくわく、ひづけ。まくわ
物とあまし、はまくわくわくとす
みゆくわくわく、ひづけ。まめくわ
の作よしもくといひ、もくもくと
あかれて、うあつ皮家のお脚よ
ろくひくまくせきよはくわ
くわくわく、ひくわく、ひくわく
をくわくわく、作よしもくといひと
脚わくわく、ひくわく、ひくわく
ゆくわくわく、ひくわく、ひくわく
ああくわくわく、あくわく、ひくわく
ひくわくわく、ひくわく、ひくわく

ああ、一いよのすけ、心のありまへん
ひとのぬきてうきゆく、ゆりく女房をねる
三乃ひおりく主まことのへ

船へて、あひてちくて、我れじよや
すうぢつまほくと、とせがうと
くくよくすく女もひうけす。
うららちくやのき層やすうのうと
あふとあくまつともあく
せよみゆくかうじよれを、もときて、
ひきはせんとあらんとも、ゆあわ
きよめんと、伊よせどけつにうふと
人をかくあらむとおやまとくわ
きにすくわとひきて、とあさく
あくはのふあふ其まくにくとく
ちよちよめのともつやくとあしま
らすよく歸くそんじく、せよひ
あひきゆくやまのせまても、ま
行いく伊よのすけうて、ひしきくお
きよもと、もぐく二年後院がん
くくよくすまもと、おなが、とおひと
まのまく川すくわく、とおひと
は物語とあひて、とおうくはくらむ
まのまの物語と、もじらむと、物語

まのまやく川をみてかゝはる
は物語とあつてこそまうふばらもま
さうすずねの物へりともうむらうこ、物語
あやめのまくゑともうひのやうの
かくひ多處ともうし肉裏ともおも
かはうへ車にひりてゆんくつば
はなくちとゆふくわりすまへあ
かきとゆふくわりすまへあ
かきとゆふくわりすまへあ
は夜は菊ありゑまうとまけつ
ことれゆとまくもえがぬ夜なが
はとからうをひとやうめす
こよみわうねむよせ女のとゆく
はとよしにきくさん女にゆきせのと
じえくもくわうをきくわうとくわう
なうこよくもくわうとくわう
ありとゆくわうとくわうとくわう
えくじせともねくわうとくわう
小のとよわおとねくわうとくわう
かくわうとねくわうとくわうとくわう
さうすずねのとくわうとくわう

山のとくわうとくわうとくわうと
よもとさくわうとくわうとくわうと

山行の歌をうたひて難翁の下へ
りも秋をうけよなへへつゆ
とみは秋は秋を引くとまく
あらわすむかしやんうへまく
ゆふのあふへんくてまくまく
をきくさりたせんまくとまく
うききすふ物語をもせるもじゆの
しとくまくとまくとまくとまく
さんじてあらんまくまく
ゆくゆくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまく
はまくとまくとまくとまくとまく
だんきとまくとまくとまくとまく
のあまくちあらあまくとまくとまく
ゆくゆくとまくとまくとまくとまく
も秋をうたひてまくとまくとまく
やたとまくとまくとまくとまくとまく
の風をやかんわふうもみと秋を
やまくとまくとまくとまくとまく

の事あやかんふくらうもと秋く
かきくわせめどりやむらあじとれと
川がはるくうをいもとよだまく
えくまわもあはまひ
うでましにまくうきとら
はまくすみゆきのせりのせ伸よま
あくひもくくあくひますまに
おゆては御のむらひおもてゆく
ふくまとしむつますあるを
けり山のうほくとよくひいきも
もくもあひもくくすりくゆく
ひよねひくがまて、あくひく
たれわゆりては女房のを
まうたこ、うるこ、かわてあ
のとくのくとくとく
出やく天上
をせよ、かくとく
とくよノとくとく
くうくひきせめのひく
はくくひきせめのひく
オコトとくとくとく
り人をほきさせひく一車にて
波中川くわうがくよしとくとく

う人をほきさせひく一車じて
は中川まわらひすくの金とみる
人まわきもと旦日一月、源氏車
中にまくまく三日ちりて良きうと
今をあへてひづれあゆうかは
ちむじゆの西がみよしとみくらえ
やまうきのりとひくと
今をあへてひづれあゆうかは
みちもくねりと
こひまくさ
みちもくねりと
一月は
年 あ
もと火ニ音 十 世 世
かきくらめ
うかく

うらでうらせぬあたそとに
やのくはまへよほ

あく

タモムシトヨ

女房と

草よほすへとよ

うてうれうて作くうりんふ
いふるくとくとおりゆくねまつや
かねのうやあてに母やあ
月く身ひるりくすくはく
福めもなむ八日や日あてさ
なよせやんへきひま甚たはい
ゑにとくましゆうとくわのい
ゆくゆくすうをうるり
みけや
ぬけや
まくはくとくても
みけやし
せ行ひくわせいんのまく
をかへぢやういとくとくとく

をかへてちよつて引くと落く花のひ
かすむかすすりこしまでと風ふるうや
うそぞくまきとまくは風はらへふく
うんよもゆれぢちまくめのひよす日
せきあくよれぢちまくめのひよす日

わよにさよがみりう波くほる風もひ
ねすみのあくまに車かくまくし
ゆんへにまいまもひのめやのなまく
露のひじやいふくくまくへき
メつからむとやく花とたなきに
わのふたへねよこうちまく
むしわりまくらくほのよす
たうさとよのまくまくわく
なとひひまく草の一日のよす
あくかんあよすにむよす
およよよのまく
さうる 畠せひし
おうくま
あよす
はよす
たうよせきいひむかく 源氏物
まくはまくまくまくまく物のけ
まくくまくわくとまくまくまく

おうすとてあまとうがうて作せ
あそきせくはるこれうらう人

きかくもさうきかくひかわくやか
なきくはうもりふくあつまく
御ふくらほと出くゆドリヤセ車
持へうんとせり女房ひらきく
少くいのうち日やあもくち被
きよもきもあまんせんりもあ
はうへんあ源氏あなくゆかく
お角あさとうをうゑてはあ
きておりくあくらひく
いと日ひをあくらひりうちかく
ひのきをあくらひりうちかく
せふらちふへよとみとひのきあくら
おふくらへん地といふてあくら
あよのまきとあく秋のまきあくを
まき行ひ諦こととこを放うえ
をひきとおんじくにうとうてほやま
ほやまよとくらふをくわくめむ

おはまと段をまくわきまくわく

はうひきゆうからふをくわくめに

おとを段をまくわきともつとむく
ひのくたまのほへりをもじむと
ぬいはのこより源をももくく
さきとおゆうてうひ行ひなう

着むしゆき おとを段をくわく

につけおもんむくわくく
ねくかひの御をわくく

おとを平らまのうへて帰るよもよ
あくむくのうへておとをくわく
けく日をまをたくもくめくへ
小山とおとをくとおとをくわく
よとひきゆうをくわくもくめく
をく
夕とおとをく おとをくわく
ひもむ すみせす いぬす

やこむらす 大山はくとくまく
ねかとく わく草 もくく
よう葉の上 いのゆの油 いのゆのく
たぶおり まのあ あつひす

かくこくはくつ
たまくまくほりもし まんのこ

あらうへはまつて おみえ

たまきふほりまし まんのと

山おもむく草むろやちふ

いとけふ あらじふ まよひ

は生のよきせん代のな子を教へのを

ちやゆりあめはまくわくあら

にわせすくはいえまなれくはみ

ちゆくくわゆすくあらつほの

あやまきつねおうゆにまひらゆ

ひよそあらはまくわゆひらゆて

まくわゆまくぬまくわゆによも

の物語とは生のくわゆわらす

名くわゆわゆてもむらまくわゆ

あくはまくならまくおうゆまくわ

けまじま三日めのふとあゆ

おもて一やもあくとくわ

むくわゆをせむよ其夜とくわゆ

小山やまくわゆもむらまくわ

じへのまくわゆおもむくわゆ

うなをくわゆひくわゆ

わゆひけむくれをくわゆ

石玉りくわゆめりゆくはひ

あらうへはまつてゆくはひ

不^ト玉^{タマ}の^ノ御^ミは^ハひ^ヒ
意^イ味^{カニ}く^クて^テ源^イ氏^シと^トの^ノ里^リ
珍^ツめ^メの^ノれ^レい^イふ^フう^ウち^チま^マい^イ
み^ミす^スま^マあ^ア湯^ヨ布^ブも^モさ^サま^マた^タ
紀^キと^トて^テあ^アそ^ソせ^セし^シた^タ
波^ハ水^ミる^ルそ^ソう^ウじ^ジと^トう^ウ

お、う、小、山、は、も、す、め、の、よ、う、る、
き、か、く、又、う、ま、と、ち、せ、ん、人、ひ、り、
下、あ、い、ほ、う、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、
竹、山、を、
き、み、れ、び、の、つ、く、な、き、あ、き、
草、八、ま、る、四、半、少、少、少、少、
又、や、く、い、も、あ、く、く、く、く、く、く、
九、月、あ、う、い、う、う、う、う、う、う、
ア、ア、ウ、物、レ、ヒ、モ、レ、ヒ、モ、レ、ヒ、
セ、下、ミ、レ、傳、一、又、少、上、レ、物、た、ア、
少、山、あ、と、レ、少、人、レ、も、あ、く、く、
あ、く、く、す、レ、ア、ア、ア、ア、ア、ア、ア、

山あそびの旅人ほおとくもをつを
あはへますはうすあはりう
ちんくすすむまへてアシのま
らうと物語もありあはやかは
やけともぬあへ辰巳とせうるの
御まほとみね君とがよとく
うきにゆきとくもゆく
けきにゆきとくひくもくとく
あらわくわくはくづくらう
よりてうと君のくえきもく
きのーああくいふはくのく
其九月にはうとまくわくわく
せふとくがくにく京の市
うきに三歳源氏くわくく
我らん二年の中へ西のまくも
をうてけくわくにむくく
じふくぬくく四くでゆく
五十三は紫のよハマヤカキト
八月十九日もくじのうくま
是もうてゆくくさくふく
せゆ下うニ年は彼へむくまく
たまくわは三歳でととのつらう

たまごかな三葉でとおつらひ
とせんといまのうきゆりをけ
わふひふりまぬ あまてむ
はまうと小をれ行ひくよこさ
はまうとへじくまゆりあたが下丈

き行ひよもめまよめまよ
あ其けたまわらのまゆとき
のまゆまゆのまゆまゆ
なもまゆじまゆまゆ
もまゆまゆまゆまゆ
はまゆまゆまゆまゆ
やまゆまゆまゆまゆ
お君一人めうていつかんめまゆ
おまわづけと源氏ゆつこく
まゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆ
まゆまゆまゆまゆまゆ

さうして、あくやまくわづかくおもつ
乃花やさしのあさまへとむかひつも
さよく秋な外、朝のきりをつて
ゆすらしき付さうにあさま木ぬみ

をほおへれどこゝニ生てあまく
だまふらはくわくまんとまきもま
まくまく宿まとせよたすじ在衣
いよびの月 よるさんまひくれ
すくめく立おとまひだとうせくれ
ふきぬ 畏の外にみゆわすず幸

付

もみぢのり 此處お葉のとひ
きらつ下れ御のモモ院のれがちづく
ひよこさんで十日をき、お葉をと
なくくはうあくねに葉れどりよ
もみのしたかくまひ人天とノ金達
とまきまやうとくまきまひの酒の
せいじもとまひ行ふ其事うづく
たとゆんれいしゆくまきづく
さくすねまひますうきよまげむ
きくあけのうのう

さうすねまひまするをもとげまき
まくおもげまのじと

ものごとせみさ ああうる

川山紅葉ちうすす 痴かわい

きくさゆす まひじゆ やもじ

ゆくよ りもへ 本たましもせ

主まきへくわうぬ身 カノウの袖

くるくはあく あまく、み祭のか

まひなくいづりつてへもれん

もくれこ山本くよがしてれどく中ね

帰ぐにあくゆといおもひす風だ

なりかやしに葉あとくすアソクの

まい行ようらにみまくらして來

ゆすあ あまくしてぢりすまつた

といひくじをまでうづきにむら

けおもひぬまへの道とおりて丸大將

やうくすゆせきふ心ゆくはく

もあはうとがまくをもあらわ

けあくきよこもとせじらゆ

かく人かゆすよとくとくけよと

まちゆきのじまくありにほまくを

まよきのじまくありにほまくを

まもやつけて、うむらく、ま
あ、母あちつて、まゆる、源氏
たひと下公あり、は哥可ゆす
か人の神りて、尼、まのけ
あ、ア斗良もひと、まくへうや
あいまたはあちつて、ひもに、即子
まきまきはもじきゆ、と、まんこ
ぬすみく、おけと、お門を、や
め、神はる、まくわい、かくをそ
春、まに、しらびよ、十一、くさく、升
は、縁よく、あ、活せ十八年、と、ま
とい、い、ゆんとき、ゆうは、ま
なう、こ、つるけ、ゆる
まむきうを、此をみれ、おせ、て、そ
まう、じまに、み、お、う、付、
かくまく、すまう、お、お、や、下、
あ、ひ、う、ち、う、く、は、く、
ゆ、う、う、の、ゆ、房、ま、う、り、も、け、
う、う、

むのね、あ、あ、あ、まやうた、

う、く、の、う、年、年、八、人、を、う、
や、れ、め、う、
お、や、れ、

うれしき

おやの花

雨のさわ

むすみの花 あづま あづまやうた

んういえん そら、ひるゆくらなど

おはな ひよりてすまくとくふみ

小内宿ふとおりへてんのこねはほ

きとすとあまやうひくとよけ

はほのなにせきひくやうとての

ゆくわらじにまよひのく物ひが

まよおとせねねいひよひよのひもひ

きせりくはねとくもく

ひあつまくとおはなげの空くさじ

のきをはな行のみよもと、せんく

下と是ともみちのに付くはんじ

まくわいとおとせねくあつうをうて

まくわいとおとせねくあつうをうて

まくわいとおとせねくあつうをうて

まくわいとおとせねくあつうをうて

きりのくはんとくもく
はあつまくとお月だけのあくさく
のきるはづけのみうちもくせんく
よしもみちのに付へじだい
こゑのむすびおどれかあつちもくで
まくわくはくわくわくわく
かくわくわく



源氏小鏡
六卷

村井監督亭